

2026年3月期(4-3月)

決算説明資料

2026年5月14日

KATO 株式会社 加藤製作所

1.セグメント(製造拠点)別状況	P.2
2.連結業績サマリー	P.3~4
3.連結損益計算書	P.5
4.営業損益の増減分析	P.6
5.連結貸借対照表	P.7
6.連結キャッシュフロー計算書	P.8
7.仕向け地別売上高推移(日本除く)	P.9~10
8.主要品目別売上高推移	P.11
9.主要品目紹介	P.12
10.通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ	P.13
11.FY27通期連結業績予想	P.14
12.TOPICS	P.15~17

セグメント(製造拠点)別状況



進化の奥の更なる真価へ

※カッコ内は前年同期比増減率

日本セグメント

売上高
51,899百万円 (11.2%) ※

営業利益
△2,231百万円 (-%)

製造拠点	仕向け地	主要製品
■ 茨城 ■ 群馬	■ 日本 ■ 米国 ■ 欧州(内部取引) ■ 東南アジア ■ 台湾 ■ 中近東 など	■ 建設用クレーン ■ 油圧ショベル等

TOPICS 日本

- 国内向け大型建設用クレーンの販売を再開
- 国内向け油圧ショベル等の弾力的な販売を実施

TOPICS 米国(輸出先)

- 米国向け油圧ショベルの需要は低迷が継続

欧州セグメント

売上高
4,378百万円 (△8.5%)※

営業利益
△239百万円 (-%)

製造拠点	仕向け地	主要製品
■ イタリア	■ EU諸国など	■ 油圧ショベル等

TOPICS イタリア

- 欧州の建機需要は低迷が継続
- 1Qにイタリア子会社に増資を実施

その他セグメント

売上高
1,130百万円 (△58.7%) ※

営業利益
57百万円 (-%)

製造拠点	仕向け地	主要製品
■ なし	■ 中国など	■ 油圧ショベル等

TOPICS 中国

- 中国子会社1社の持分譲渡を実施済み

連結業績サマリー



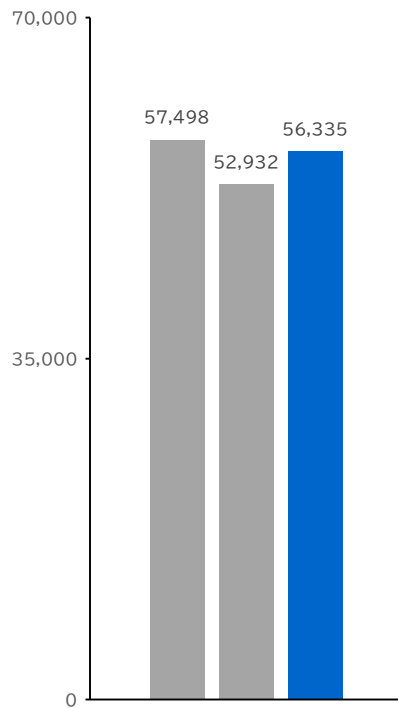
進化の奥の更なる真価へ

(単位:百万円)

売上高

56,335

前年同期比
(▲ +6.4%)

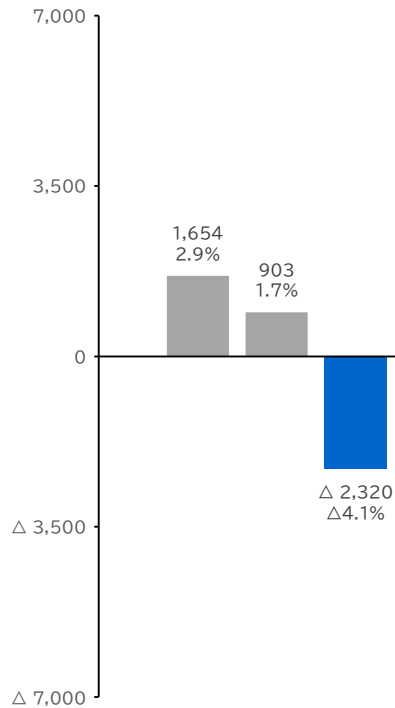


FY24-4Q FY25-4Q FY26-4Q

営業利益・率

△2,320

前年同期比
(▼ -%)

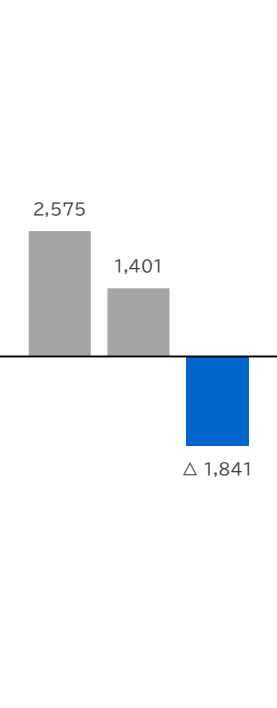


FY24-4Q FY25-4Q FY26-4Q

経常利益

△1,841

前年同期比
(▼ -%)

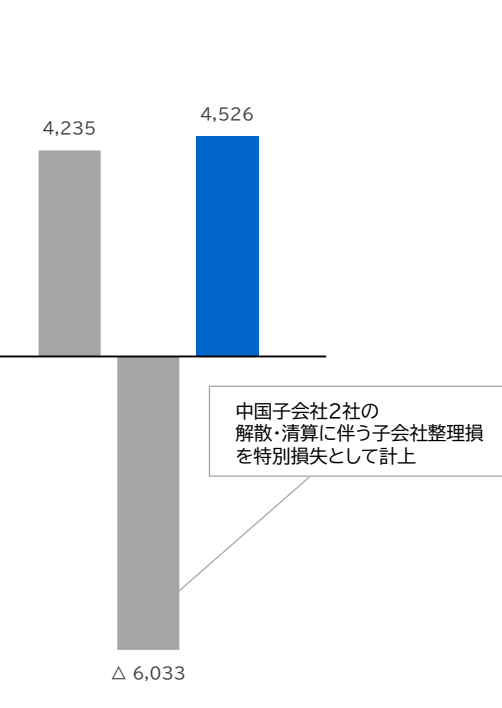


FY24-4Q FY25-4Q FY26-4Q

親会社株主
当期純利益

4,526

前年同期比
(▲ -%)



FY24-4Q FY25-4Q FY26-4Q

連結業績サマリー(四半期毎の売上高・営業利益)

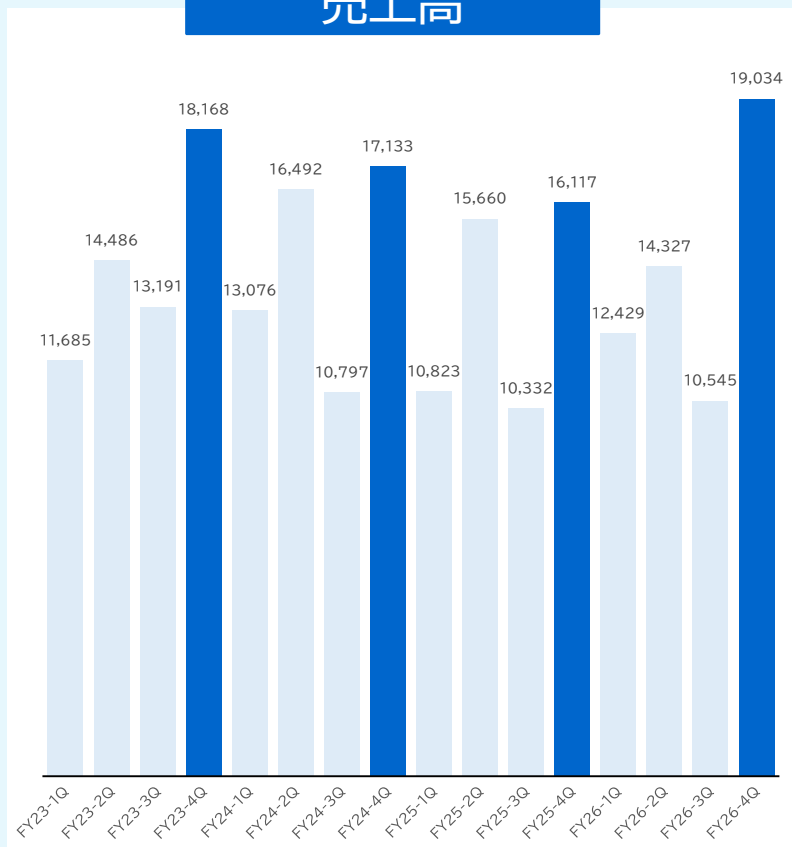


進化の奥の更なる真価へ

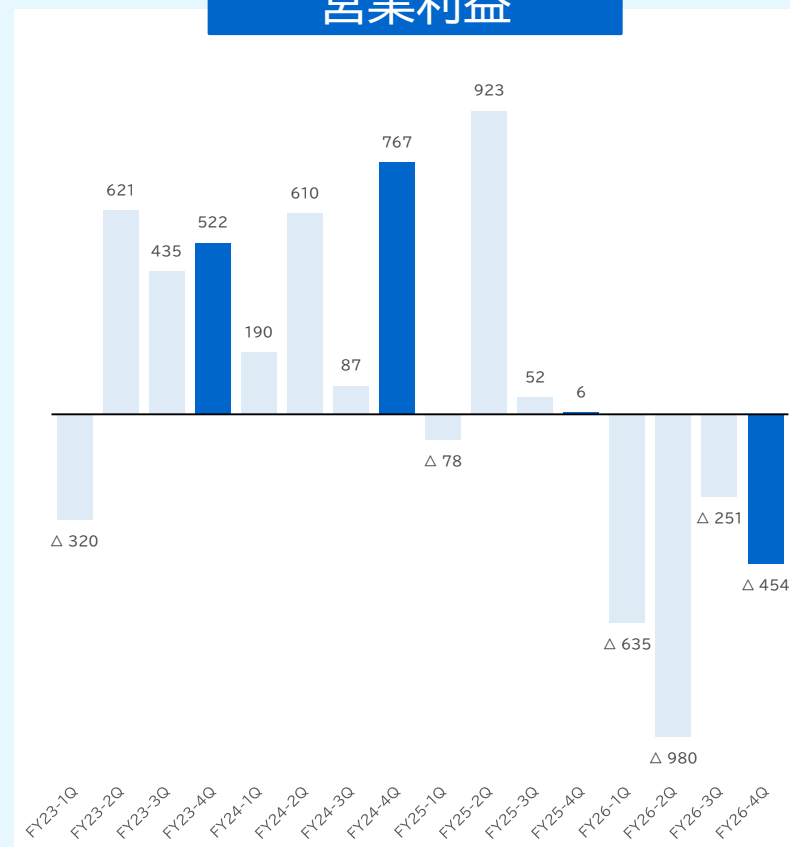
(単位:百万円)

✓季節性:2・4Qに売上が集中する傾向

売上高



営業利益



連結損益計算書



進化の奥の更なる真価へ

(単位:百万円)

	FY25-4Q		FY26-4Q		前年同期比	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	52,932	100.0%	56,335	100.0%	3,403	6.4%
売上原価	44,332	83.8%	50,510	89.7%	6,177	13.9%
売上総利益	8,599	16.2%	5,824	10.3%	△ 2,774	△32.3%
販管費	7,695	14.5%	8,145	14.5%	449	5.8%
営業利益	903	1.7%	△ 2,320	△4.1%	△ 3,224	-
営業外損益	498	0.9%	479	0.9%	△ 18	△3.8%
経常利益	1,401	2.6%	△ 1,841	△3.3%	△ 3,243	-
特別損益	△ 7,000	△13.2%	6,541	11.6%	13,541	-
税前利益	△ 5,598	△10.6%	4,699	8.3%	10,298	-
法人税等	505	1.0%	201	0.4%	△ 303	△60.1%
非支配株主当期純利益	△ 70	△0.1%	△ 28	0.0%	42	-
親会社株主当期純利益	△ 6,033	△11.4%	4,526	8.0%	10,559	-
ROE	△12.7%		10.4%		+23.1ポイント	
株主資本コスト	7.4%		7.9%		+0.5ポイント	
ROIC	0.9%		△3.3%		△4.2ポイント	
WACC	2.7%		2.9%		+0.2ポイント	

✓**売上高:**国内では大型ラフテレーンクレーン販売再開や

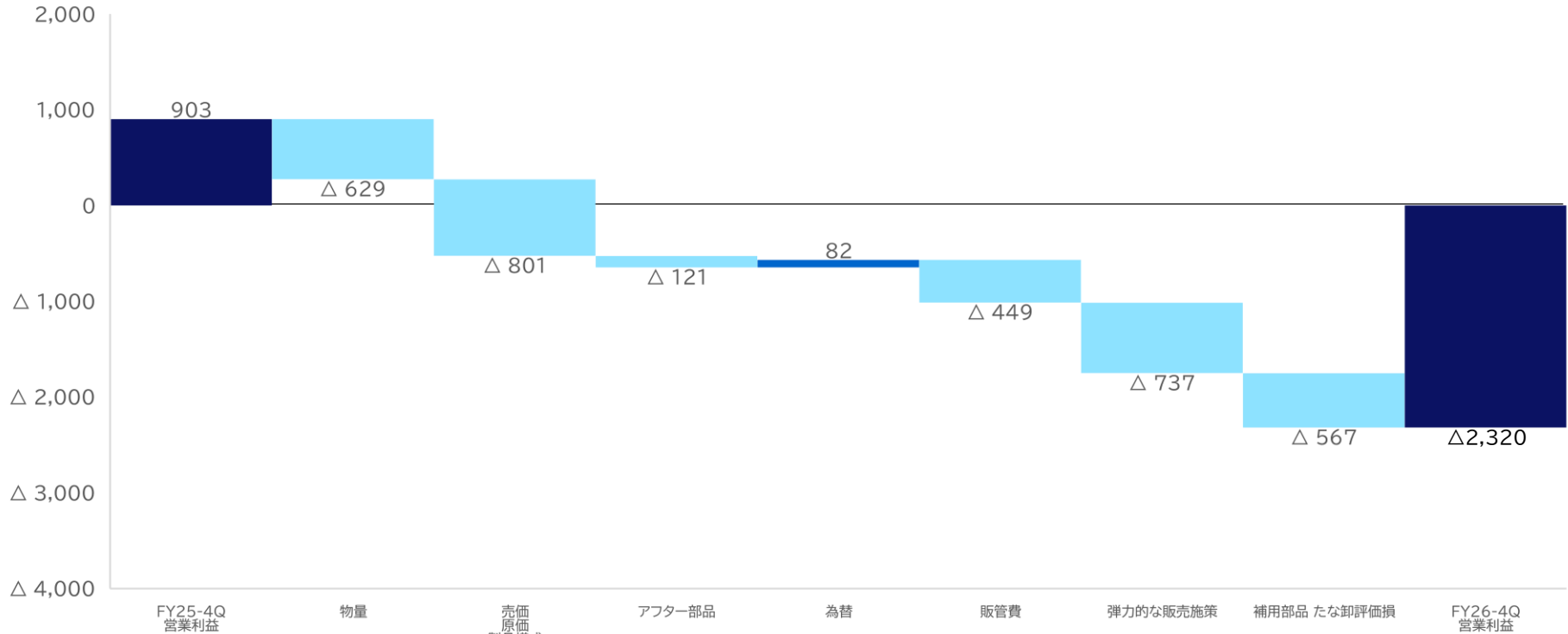
油圧ショベルの一部製品における弾力的な販売施策を継続したこともあり前期比+6.4%の増収

✓**原価率:**83.8% → 89.7%(5.9ポイント増加)在庫調整に伴う工場稼働率の低下、資材価格・物流費の上昇などにより製造原価率が悪化

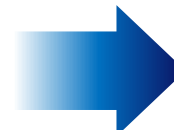
✓**特別損益:**中国子会社の持分譲渡に伴う、子会社株式売却益7,224百万円計上
欧州子会社の業況を踏まえた、減損損失△566百万円計上

営業損益の増減分析

(単位:百万円)



- ・物量 △629
- ・売価/原価/製品構成/その他 △801
- ・アフター部品 △121
- ・為替 82
- ・販管費 △449
- ・弾力的な販売施策 △737
- ・補用部品たな卸評価損 △567



△2,320

前年同期比 ▶ △3,223

在庫調整に伴う工場稼働率の低下、資材価格・物流費の上昇による製造原価率の上昇に加え、補用部品等の長期在庫に対する一過性の評価損計上などにより前期比で営業減益

連結貸借対照表

(単位:百万円)

FY25-4Q
総資産102,747

FY26-4Q
総資産92,365(Δ10,381)

流動資産 80,292		流動負債 40,630	
・手許資金	14,763	・仕入債務	10,536
・売上債権	17,983	・短期借入金	26,470
・たな卸資産	45,272	・その他	3,624
・その他	2,274		
固定資産 22,454		固定負債 17,513	
・有形固定資産	16,277	・長期借入金	17,308
・無形固定資産	1,318	・その他	205
・投資その他資産	4,858		
純資産 44,603			
	・利益剰余金	27,457	
	・為替換算調整勘定	5,623	
	・その他	11,523	

資産

負債・純資産

流動資産 71,047		流動負債 36,469	
・手許資金	11,068	・仕入債務	6,436
・売上債権	19,468	・短期借入金	26,963
・たな卸資産	39,936	・その他	3,070
・その他	574		
固定資産 21,318		固定負債 13,428	
・有形固定資産	15,025	・長期借入金	13,220
・無形固定資産	1,062	・その他	208
・投資その他資産	5,230		
純資産 42,467			
	・利益剰余金	31,168	
	・為替換算調整勘定	889	
	・その他	10,409	

資産

負債・純資産

✓売上債権 ※

・日本	16,178	→	18,490
・欧州	2,240	→	2,915
・その他	981	→	122

✓たな卸資産 ※

・日本	41,365	→	36,771
・欧州	3,220	→	3,297
・その他	819	→	11

※連結修正前の参考数値であり
貸借対照表の数値と一致いたしません

日本の在庫水準適正化を
最優先課題として位置づけ、
油圧ショベルの一部製品で弾力的
販売施策を継続するとともに、
生産計画の見直しを実施

✓負債
長期借入金の返済に伴い
負債は減少

✓純資産
中国子会社1社の連結除外に伴い
為替換算調整勘定が減少し
利益剰余金が増加

✓純資産比率
46.0%と財務健全性は維持

連結キャッシュフロー計算書



進化の奥の更なる真価へ

(単位:百万円)

		FY25-4Q	FY26-4Q
		金額	金額
営業キャッシュフロー	税前利益	△ 5,598	4,699
	減価償却費	1,351	1,750
	売上債権増減額	8,317	△ 1,200
	たな卸資産増減額	△ 13,486	5,363
	仕入債務増減額	△ 3,291	△ 4,449
	その他	△ 612	△ 6,424
営業キャッシュフロー計		△ 13,319	△ 260
投資キャッシュフロー	固定資産取得	△ 1,281	△ 931
	その他	351	2,951
	投資キャッシュフロー計	△ 930	2,019
財務キャッシュフロー	有利子負債増減額	7,578	△ 4,298
	その他	△ 940	△ 1,575
	財務キャッシュフロー計	6,638	△ 5,874
増減額	換算差額	8	420
	増減額計	△ 7,602	△ 3,695
現金及び現金同等物の期首残高		22,366	14,763
現金及び現金同等物の期末残高		14,763	11,068
有利子負債残高		43,809	40,207

営業CF

在庫水準適正化のため
生産計画を見直したことにより、
たな卸資産増減額 +5,363 を計上
(※たな卸資産は減少)

投資CF

中国子会社の持分譲渡に伴い
+2,717 を計上

財務CF

長期借入金の返済が進行

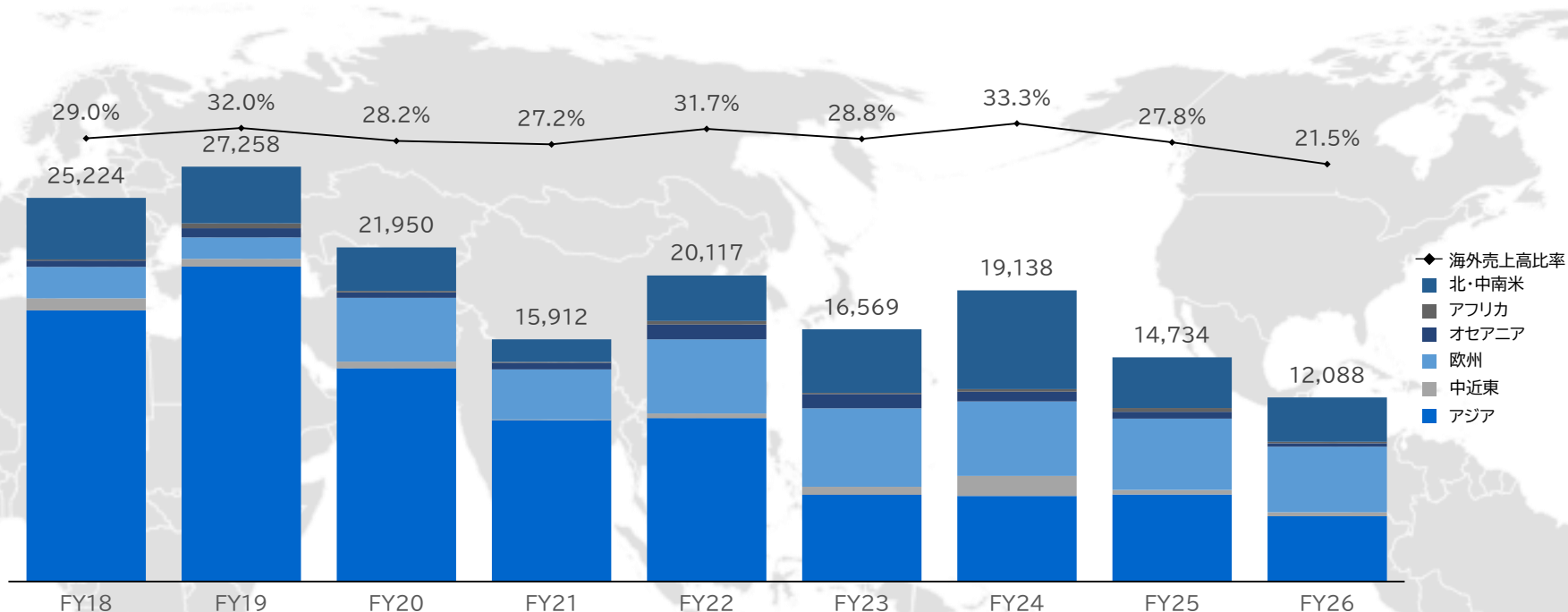
現金及び現金同等物の期末残高

14,763→11,068に減少

仕向け地別売上高推移(日本除く)

(単位:百万円)

	FY24-4Q		FY25-4Q		FY26-4Q		前年同期比		総売上高 構成比
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
アジア	5,616	29.3%	5,718	38.8%	4,290	35.5%	△ 1,428	△25.0%	7.6%
中近東	1,323	6.9%	288	2.0%	265	2.2%	△ 22	△7.9%	0.5%
欧州	4,900	25.6%	4,703	31.9%	4,304	35.6%	△ 398	△8.5%	7.6%
オセアニア	632	3.3%	445	3.0%	226	1.9%	△ 219	△49.2%	0.4%
アフリカ	160	0.8%	243	1.6%	86	0.7%	△ 156	△64.4%	0.2%
北・中南米	6,504	34.0%	3,334	22.6%	2,915	24.1%	△ 419	△12.6%	5.2%
海外売上高合計	19,138	100.0%	14,734	100.0%	12,088	100.0%	△ 2,645	△18.0%	21.5%

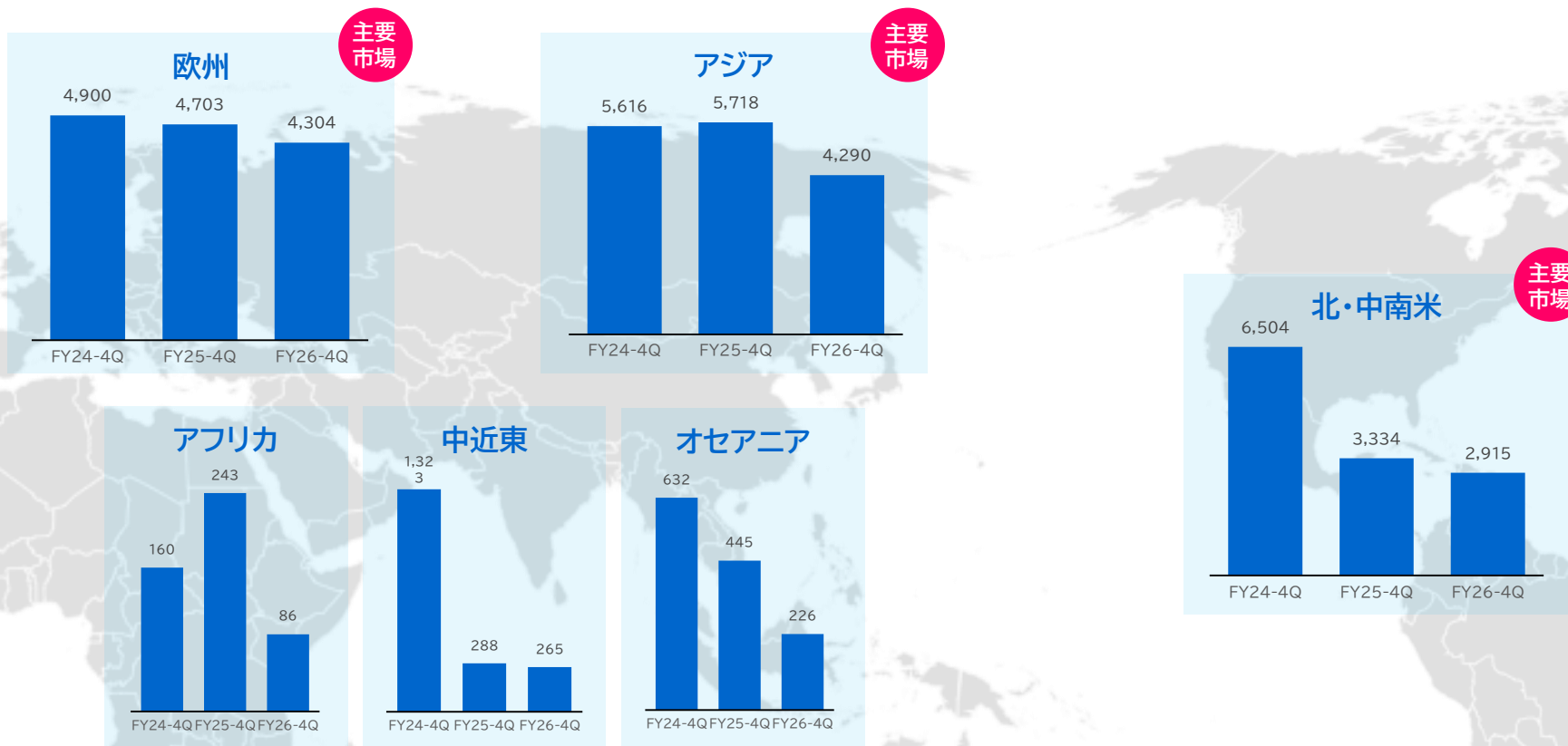


仕向け地別売上高推移(日本除く)

(単位:百万円)

海外市場における現状の取り組み

- ✓北・中南米:パイプラインなどのエネルギー関連産業における旺盛な潜在需要獲得に向け、販売網の強化に着手
- ✓欧州:欧州全般での需要低迷が継続、欧州拠点の再編成を推進中
- ✓アジア:中国子会社1社の持分譲渡が完了、成長市場として期待するインドにて現地企業との合併会社を設立



主要品目別売上高推移



進化の奥の更なる真価へ

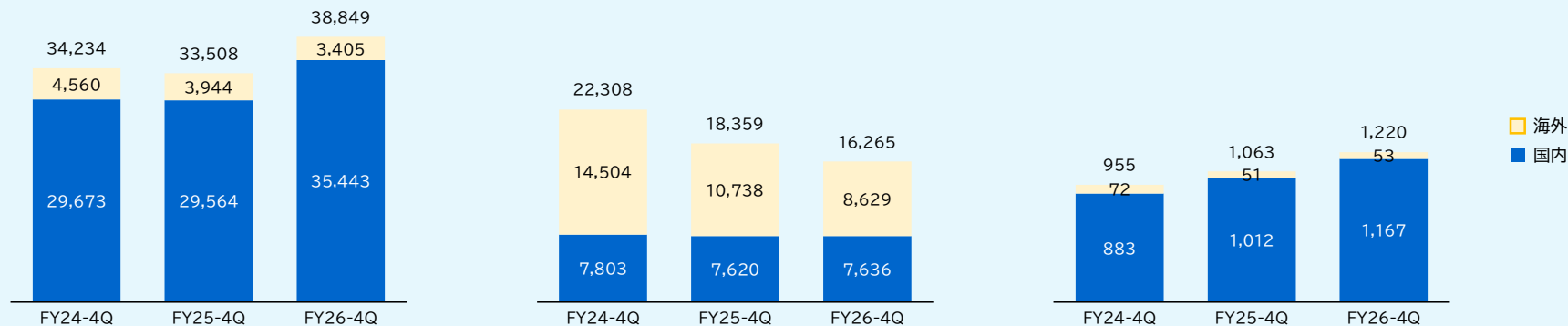
(単位:百万円)

	FY24-4Q		FY25-4Q		FY26-4Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
建設用クレーン								
国内売上高	29,673	51.6%	29,564	55.9%	35,443	62.9%	5,878	19.9%
海外売上高	4,560	7.9%	3,944	7.5%	3,405	6.0%	△ 538	△13.7%
計	34,234	59.5%	33,508	63.3%	38,849	69.0%	5,340	15.9%
油圧ショベル等								
国内売上高	7,803	13.6%	7,620	14.4%	7,636	13.6%	15	0.2%
海外売上高	14,504	25.2%	10,738	20.3%	8,629	15.3%	△ 2,109	△19.6%
計	22,308	38.8%	18,359	34.7%	16,265	28.9%	△ 2,093	△11.4%
その他								
国内売上高	883	1.5%	1,012	1.9%	1,167	2.1%	154	15.3%
海外売上高	72	0.1%	51	0.1%	53	0.1%	1	3.6%
計	955	1.7%	1,063	2.0%	1,220	2.2%	156	14.7%
合計								
国内売上高合計	38,360	66.7%	38,197	72.2%	44,246	78.5%	6,048	15.8%
海外売上高合計	19,138	33.3%	14,734	27.8%	12,088	21.5%	△ 2,645	△18.0%
計	57,498	100.0%	52,932	100.0%	56,335	100.0%	3,403	6.4%

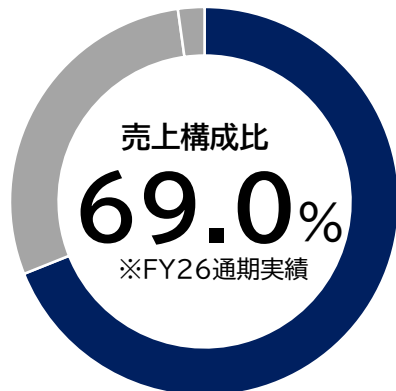
建設用クレーン

油圧ショベル等

その他



建設用クレーン



ラインナップ

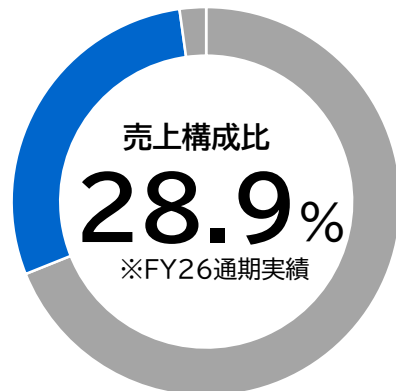


- ✓ラフテレーンクレーン ※車両運転席クレーン操縦席一体型
- ✓オールテレーンクレーン ※車両運転席クレーン操縦席分離型
- ✓クローラクレーン
など幅広い移動式建設用クレーンを製造・販売

用途

- ✓インフラ、ビル、住宅の建設現場などで使用

油圧ショベル等



油圧ショベル



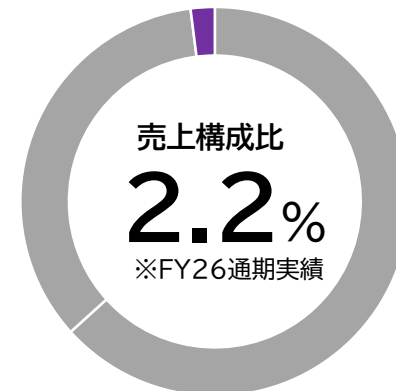
- ✓ミニショベル (車両重量0.9~10t)
- ✓中大型ショベル (車両重量8~50t)
まで幅広く製造・販売
- ✓建設地の造成や建築物の解体などに使用

クローラキャリア



- ✓インフラ整備、土木
工事、災害地など
不整地での資材運搬
に使用

その他



路面清掃車



万能吸引車



スノースイーパー



- ✓販売先は公的機関や空港など
売上構成比は低いものの、競争少なく
幅広い特装車を製造・販売

通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期(前回発表)	2026年3月期 実績値
	金額		金額	金額
売上高	52,932		57,000	56,335
営業利益	903		△500	△2,320
経常利益	1,401		△1,000	△1,841
親会社株主当期純利益	△6,033		5,800	4,526
1株当たり 配当金	中間	35円	35円	35円
	期末	35円	35円	35円
	年間	70円	70円	70円

差異の理由

✓売上高につきましては、足元で開発を進めていた新型油圧ショベルシリーズの市場投入が固まったことを受け、国内市場において購買需要が高まる第4四半期での在庫製品の弾力的販売を加速させたこともあり、概ね前回発表予想に近い水準で着地いたしました。

一方、営業利益および経常利益につきましては、優先課題である在庫水準の早期適正化を目的とした販売施策の推進と工場稼働の抑制に加え、資材価格・物流費の上昇による製造原価率の悪化、新機種開発に関わる諸費用の計上等もあり、前回発表予想を下回る結果となりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、2026年2月13日公表の「海外子会社の連結除外に伴う特別利益の計上および業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、中国子会社の持分譲渡完了に伴う特別利益を計上したものの上記要因により、前回発表予想を下回る結果となりました。

なお、配当予想につきましては、変更はありません。

FY27通期連結業績予想

(単位:百万円)

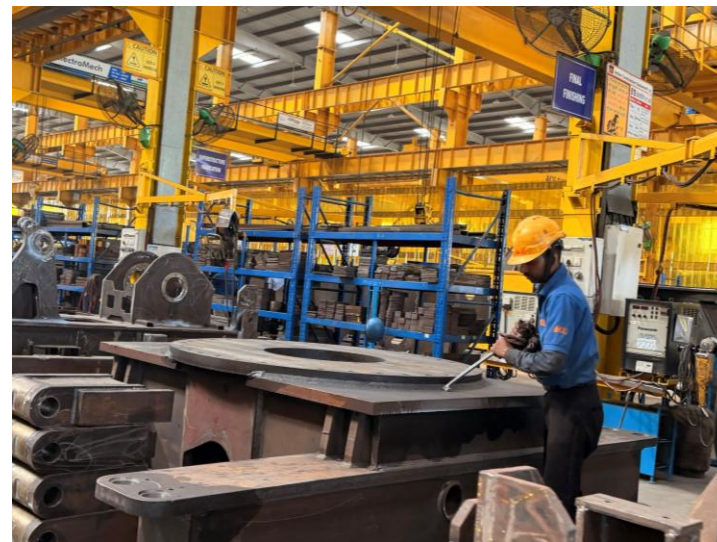
		2026年3月期		2027年3月期(予想)	
		金額		金額	増減率
売上高		56,335		61,000	8.3%
営業利益		△ 2,320		600	—
経常利益		△ 1,841		120	—
当期純利益		4,526		0	—
1株当たり 配当金	中間	35円		35円	
	期末	35円		35円	
	年間	70円		70円	

✓2027年3月期の連結業績予想につきましては、ウクライナや米国・中東情勢等の地政学リスクが期初段階で解消しておらず不透明な事業環境が継続するものと見込んでおります。

そのような状況下、市場全般における建設機械需要の急激な増加は見込めないものの、当社が足元で開発を進めていた新型油圧ショベルシリーズの国内市場への投入、インド事業の操業開始に加え、近年低迷していた米国市場の需要回復が相応に期待できることから、売上高は前期比8.3%増となる610億円を見込んでおります。

一方、損益面は営業黒字には転じるものの、資材価格・物流費等のさらなる上昇懸念や財務体質の改善を目的とした弾力的な販売戦略を今期も継続していくことから、中期経営計画で描いていた水準には届かないものと見込んでおります。

このような状況のもと、新たな収益の柱として期待するインド事業を早期に軌道に乗せるとともに足元で高騰を続ける様々なコストを吸収できるよう製品・部品価格の適正化を図り、収益の確保に努めてまいります。



現地企業との提携について

- ・インド国内で設立予定の合弁会社について共同出資先であるAction Construction Equipment Ltd. (以下、ACE 社)との間で出資額および出資比率が決定
- ・当該合弁会社はACE社の大型クレーン事業を基盤に当面はインド国内および海外向け移動式クレーンの生産を行う予定
- ・2027年3月期の上期から操業を開始予定

合弁会社の概要

会社名：ACE KATO Pvt.Ltd.

資本金：20 億インドルピー(約34 億円)/当社とACE 社の共同出資 (当社出資比率50%)

所在地：インド共和国 ハリヤナ州

事業内容：移動式クレーンの生産 (トラッククレーン、クローラクレーン、ラフテレーンクレーン)

油圧ショベル新シリーズ4機種 7月より一斉販売開始



特長

作業効率・環境性能の向上を目的に、全ての要素を
全面刷新した新世代油圧ショベル

- ★定評のある操作フィーリングのさらなる向上と、
サイクルタイム短縮による作業効率の向上を実現
- ★欧州排出ガス規制Stage Vに適合したエンジンの
搭載と油圧システムの最適化により、環境性能と
燃費性能の向上を実現
- ★新型キャブの搭載により足元をはじめとする前方
空間を拡大し、オペレーターの快適な作業環境を
追求
- ★機体各部を見直した新規設計により、日常点検や
メンテナンスに配慮した構造を実現
- ★テレマティクス(稼働管理システム)「K-cast」の
搭載により、稼働状況の把握と効率的な車両管理を
サポート
- ★多種多様なアタッチメントの取り付けに対応し、
幅広い作業現場での活用を実現

希望販売価格

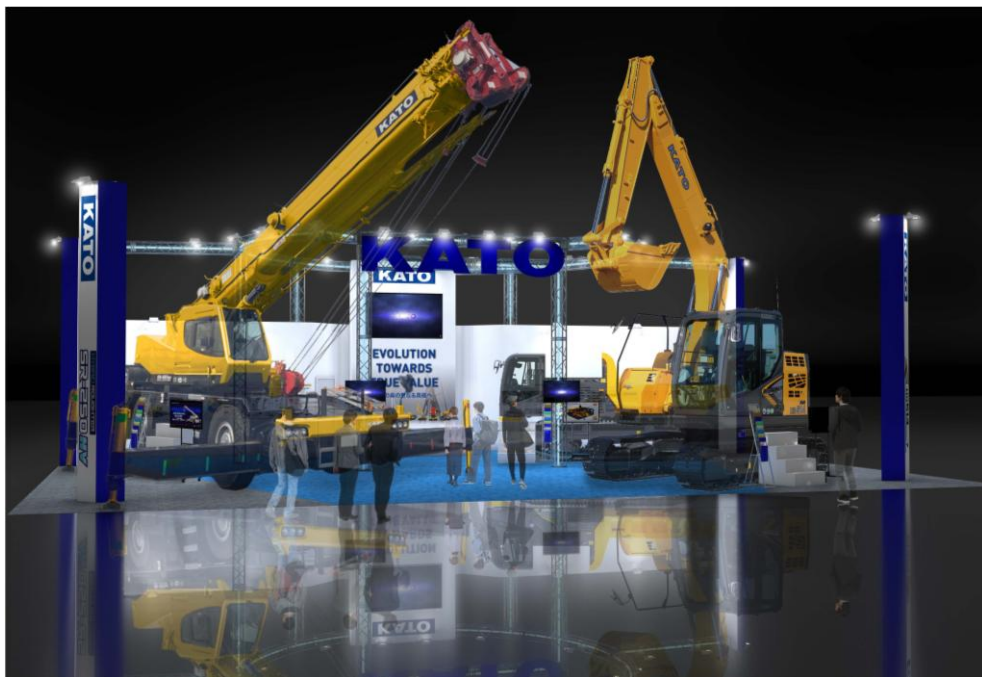
21.5百万円～30百万円(税別)

発売日

2026年7月

販売目標

200台～400台 / 年



写真はイメージです

概要

- ・2026年6月17日(水)～20日(土)に幕張メッセで開催される「第8回 国際 建設・測量展(CSPI2026)」に出展予定
- ・建設・測量分野の最先端技術が集まる本展示会で、環境負荷低減、安全性向上、生産性向上に寄与する当社製品・技術をご紹介します

出展内容

- ★環境に配慮した世界初のハイブリッドラフター「SR-250HV」のデモンストレーション
- ★2026年7月販売予定の新型油圧ショベル4機種のうち「HD514MR-9」を先行展示
- ★輸送性と安全性を両立した全旋回式クローラキャリア「IC110R」を展示
- ★当社のDXの取組みの一つである稼働管理システム「K-Cast」を紹介し、稼働状況の可視化による作業効率化を提案

お問い合わせ先
コーポレートコミュニケーション部
〒140-0011 東京都品川区東大井1-9-37
E-Mail : ir-kato@kato-works.co.jp

注意事項

本資料に記載されている現在の計画や今後の見通しに関する内容につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて、計画・予想したものであります。

実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのため本資料におきましては、その実現を確約あるいは保証するものではありません。